

市内巡回バスの運行 議論し、研究してみる

水野 恭子 議員（共産党）

あり、高齢化が進むなか、社会参加や健康確保の面でも、便利な交通アクセスを早急に考えるべき。平成9年に請願が趣旨採択されているのに一向に実施されない。これは、市長の政治責任である。市長の考えを問う。

一方で、老人福祉センターへの巡回バスは、乗降客が少ない。福祉部とも連携し、市として公共交通の重要性を認識し一歩でも前向きに進めよ。

市長 今の状況は、決して便利であると思っていない。

経済環境部長 各公共

施設を經由した路線で巡回バスを運行した場合、民間路線バスと競合するルートも生じることから民間バスの撤退という逆に不便になる可能性もある。どの様な路線にするのか、またこれに係る費用の課題も大きく厳しい。

② 高齢者や障害者の方々が安心して在宅生活が送れるよう歩いていける場所に宅老所を。福祉部長 宅老所は、地域支援事業として取り組んでいきたい。

③ 中央公民館にエレベーターの設置を。

⑦ エレベーターがなくて2階に行くのに、障害者の方を車椅子ごと運んでいる事に對し、市はどのように考えるのか。

教育部長 現在、エレベーターの設置は考えていない。車いす用のバスターrier方式の階段昇降機を使用していたら、どの、今の施設で、できる範囲の利便を図る。

① 昇降機を6年間一度も使わないで、本当に安全が確保できるのか。

教育部長 機械になれていたことは必要。エレベーター設置は課題と考える。

④ 大住小、幼稚園児の通学路にガードレールを建設部長 利用状況を十分調査し、努力する。



八幡市内を走る巡回バス

教基法改定に反対を 今回の見直しは必要

塩貝 建夫 議員（共産党）

① 教育基本法改正案が国会で審議され、全面改定されようとしている。基本認識を問う。

教育部長 現在の教基法の目的、方針、基本理念、基本原則は、教育の根幹となつて現在に至っている。戦後の教育が実施されてきた事に對し、この法律の意義は大変大きいと認識している。

時代の変化、生活様式や価値観の多様化など、



教育基本法の掲載記事がある新聞

く変化している。国会で議論されている政府案は必要な見直しであると認識している。

市長 現行の教基法の普遍的な理念を大切にしながら、教育が目指す基本理念や基本原則をより明確にし、21世紀を切り開く心豊かでたくましい日本人の育成の観点から国民の共通理解を図りながら改正することは必要と認識している。

② 市内2校、6年生の通知表の社会科で愛国心を評価する項目があるが、内心を評価することは問題である。

改めるべきと考えるが、教育部長に問う。

教育部長 国を愛する心情を持つということを評価するのは非常に難しい内容である。課題があれば指導したい。

③ 住宅耐震リフォーム

助成制度について問う。

建設部長 耐震診断を7月の末から8月にかけて2週間、申請書を受付し、審査等を9月末に完了したい。その結果をみて耐震助成制度導入を検討したい。

④ 携帯電話基地局建設に対する開発指導要綱見直しについて進捗を問う。

建設部長 今後制定予定の、(仮称)開発まちづくり条例策定作業の中で対象範囲を検討していきたい。

⑤ 大住責谷の違法建築物に対する指導について問う。

建設部長 5月12日に文書で、府へ是正指導を要請した。土地所有者にも指導する。

障害者生活 支援対策は 充実には努力していく

小林 喜代司 議員（一新会）



4月に開設された障害者生活支援センター(近鉄新田辺駅前)

① 障害者が安心して暮らせるまちづくりを進める中で4月1日に本市に開設された障害者生活支援センターの現状と、法改正に伴い障害者施策の総合的な対策と新たな支援計画が必要である、と思われるが市の考えは。

福祉部長 4月1日から近鉄新田辺駅前に市単独で障害者生活支援センターを開設した。5月末までの2か月間で相談件数は延べ217件である。昨年まで八幡市で共同設置していた時の京田辺市民の方の利用状況は平成16年度で22件、平成17年度は31件であった。

援センターの現状と、法改正に伴い障害者施策の総合的な対策と新たな支援計画が必要である、と思われるが市の考えは。

福祉部長 4月1日から近鉄新田辺駅前に市単独で障害者生活支援センターを開設した。5月末までの2か月間で相談件数は延べ217件である。昨年まで八幡市で共同設置していた時の京田辺市民の方の利用状況は平成16年度で22件、平成17年度は31件であった。

今後、本市として福祉サービスや相談支援の必要量の見込みや確保の方策等について定めて参りたい。

② 近鉄興戸駅から府道八幡木津線までの市道は通行車両も多い中を一般市民の方、また多くの同

志社の学生さんも通行されている。安全対策を強く求められているが市の考えは。

建設部長 現在京都府において、JR同志社前駅前の府道八幡木津線の交差点の改良工事中であり120m間の歩道整備が行われる。

その後市においても歩行者等の安全対策を考慮した工事を実施する予定である。

喫煙者に配慮を 非常に難しい問題だ

松本 耕治 議員（新生会）



喫煙スペースが設けられている田辺中央体育館

① 18年度はタバコ税として3億円計上されているが、喫煙者に対する配慮が見えない。嫌煙権もあるが、喫煙権もあるはずである。それなりの配慮を。

市長 喫煙者に対する配慮は非常に難しい問題だと認識している。

② 山手東の道路状態は非常に悪い。人がケガをする。

③ 住み良いまちづくりは市長の公約でもある。現在の乱開発状態では

秩序ある住み良いまちを作るのは無理である。将来的構想を持って道や公共施設の配置等を事前に設定し、条例を作っても住み良いまちづくりを行っていただきたい。

建設部長 法的に適正に指導している。今後は、総合計画やマスタープランに基づいてまちづくりを進めたい。

④ 松井山手にはパチンコ屋が、健康ケ丘等では道路状態がぐくはぐな開発等が行われ、街が壊れていくような感じがする。法的には正しいかもしれないが、これでは秩序あるまちづくりができない。理想的なまちづくり構想を持った上でまちづくりを望む。

助役 理論的、理想的な提言であり、最大限の努力をしたい。

⑤ この6月に施行された道交法によって、リフトカー等が駐車違反の摘発を受ける可能性があり、駐車禁止地区での送迎サービスが難しい状態になった。市として適切な対応をお願いしたい。

助役 福祉車両等を例外外とする運動が必要と思う。行政は行政の立場で国に意見具申をしたい。議会も意見書を国に上げては。

⑥ 保健福祉計画では、ボランティアやNPOと協働して行うと書かれている。ボランティア等にももう少し配慮があっても良いのではないか。